

2024(令和6)年度

大津市立志賀小学校

「学校評価書」

大項目	中項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
学校教育目標	教育目標・校務運営	1 教育目標や学校経営の方針、学校経営の重点を理解し、実践することができた。	A	A	教育目標、学校経営方針は全職員が共通理解し、実践に生かしている。各校務分掌については、その機能が十分に生かしていないものもある。	A	子どもの様子を見ると、教職員が積極的に教育活動に取り組んでいることが分かる。どんな子どもに育てたいかを職員全体で共通認識していることもうかがえる。継続してじっくり取り組んでほしい。	今後も、「目指す子ども像」を教職員全員で共通認識して教育活動を行う。また、教職員自身の適性に応じた校務分掌を組織し、自分に与えられた役割に責任を持って取り組むようにしていきたい。各分掌の引き継ぎを丁寧に行い、年度がかわっても変わらず子どもたちへの対応ができるようにする。
		2 校務分掌での役割を理解し、組織の一員として積極的に参画することができた。	A					
	志賀小のあたりまえづくり ～元気いっぱい笑顔あふれる志賀小～	3 児童は、心のこもったあいさつ・ていねいな言葉づかいができるようになっている。	A	A	「志賀小のあたりまえづくり」に挙げた3校訓の達成に向けて、教職員も子ども達も皆で取り組めており、子どもが非常に落ち着いてきている。高学年姿がよい影響を与えているように思われる。	A	子どもにも教職員にも分かりやすく目標とする姿を示せたことが大きな成果である。あいさつについては、地域でも自分からできる子どもの姿が見られるようになった。さらに増えてくると、地域もさらに活気づくだろう。黙々と掃除をする姿は素晴らしいと感じた。	教職員自身が範を示しながら称賛することを中心に丁寧な指導を続け、子ども達のさらによい姿が見られるように推進していきたい。志賀小学校のあるべき姿を高学年が示すことで全校に広められるように、志賀小よい子ニュースの充実を図る。
		4 児童は、人の話を目と耳と心で聴くことができるようになっている。	A					
		5 児童は、一人で黙々と掃除に取り組むことができるようになっている。	A					
	主体的・対話的で深い学び	6 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践することができた。	A	B	支持的風土づくりには、どの教職員も積極的に取り組む意欲を持っている。帯時間の「志賀つ子タイム」を利用して、国語科の「話す・聞く・書く」等の学習を繰り返し行うことで力をつけている。また、「ひろげよう」の校内放送を継続して行うことで、「話す力」の向上を図ることができている。	B	教職員と子ども達の信頼関係が築かれていると感じた。学習環境が整い、落ち着いた空気で学習が進められている。成果と課題を検証して、良いものについては継続して取り組んでほしい。校舎の老朽化が気になる。修繕できるとより子どもの学習環境が整うのではないか。	日常的に子どもが意欲的に学べる授業を展開していく。特に、ICT機器を活用した授業づくりを積極的に進めていく。一人一台のタブレット端末が整備されたことで、視覚的な学習支援が行いやすくなったことを生かし、学びの幅を広げていきたい。
		7 協同する体験や伝え合う喜び、コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善を行った。	B					
		8 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会を行った。	B					
	道德教育	9 生命を尊重するむやいじめを許さない態度などの道德的実践力を育てる活動の実施を行った。	A	A	今年度は校内研究の教科窓口を「特別な教科道德」にしていたことで、全教員で子どもの道德心向上に向けて研究を進めることができた。また、初任者研修やステージ研修の公開授業に置いても道德の授業を発信することができた。	B	来校した際にきちんとした言葉づかいで丁寧に話したりあいさつしたりできる子どもが多い。登下校中に低学年の子どもを思いやる高学年の姿を見かけることがある。見守り隊等地域の人々への感謝の気持ちが育ちつつある子どもの姿も見られる。継続してほしい。	道德の教科科に伴い、校内研究の研究強化と位置づけて日々研究と研修を行っている。今後もカリキュラムや評価等の研修会を開催したりしながら授業力を高め、子ども達が実践する姿につなげていきたい。3校訓をもとにした人間性の育成を継続しつつ、日々の生活全体で実践力を評価し高めていきたい。
		10 道德の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流を行った。	A					
		11 保護者等への道德の授業公開を行った。	B					
	体力づくり	12 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善を行った。	A	A	指導と評価の一体化、さらに運動量を意識した体育の授業や子どもが運動したいと思えるような環境整備を継続することができた。また、委員会を中心に縄跳び大会やリレー大会などのイベントを実施することができた。子ども達は楽しみながら意欲的に活動していた。体育の宿題の実施した。	A	朝休み、中休み、昼休みに、外で元気に遊ぶ子どもが多いと感じた。寒くなってきた、休み時間に外で遊んでいる子どもが多いと聞き喜んでいる。また、放課後も先生とともに遊ぶ子ども達の姿が見られる。日常的な外遊びの良い習慣が定着しているとうかがえる。剣玉や縄跳びが全校に広まり、楽しみながら体力作りができる風土が根付いている。	体育の時間だけでなく、家庭でも体を動かして遊んだり、活動したりしようとする子どもが育つように、「体育の宿題」を計画的に出したり、休み時間の運動遊びを積極的に勧めたりして、体力の二極化に歯止めをかけたい。今年度、全校に広まった縄跳びとけん玉を通した体力作りの進め方を検証し、さらに広まりを目指したい。
		13 体力づくりを推進する運動実践を行った。	A					
		14 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする児童の育成に努めた。	A					
	指導改善	15 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善を行った。	A	A	校内研究の一環として、最初の5分間での課題提示やまとめの時間を設ける等の授業改善を継続した。子ども達の学が意欲の継続を醸成するための自主学习ノート取組も昨年度より継続して行った。働き方改革については、3校訓を軸に学校の落ち着きを醸成するとともに「放課後業務のシステム化」が定着した。今年度から隙間時間の読書を行うようにした。	B	今後も、子ども達が意欲を持って学び続けられる学習環境の確立に精進してほしい。（校内ウイングの活用も含め）また、業務改善を行うことで、教職員が子ども達にゆったりと関わる時間が増やすとともに、子育てに不安を感じる保護者への積極的な支援にける時間を増やしてほしい。	3校訓の徹底や校内研究や研究授業での成果を生かして、学びに向かう力を育んだり学ぶ意欲を継続させたりする取組を深化させたい。また、読書の時間も設定し、本に親しむ機会を増やし、読解力の向上に繋げたい。ICTの活用で校務の効率化を図るとともに、「放課後業務のシステム化」について検証し、さらに児童に目を向けられるような働き方改革を進めたい。
		16 教職員の指導力及び3公（公開、公平、公正）・3現（直ちに現場、直ちに現地の児童、直ちに現地対策）の2原則に立った組織的な教育力の向上に努めた。	B					
		17 校務の効率化など多忙感解消の取組と教育活動の質の改善に努めた。	A					

育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	18	保護者の子育てに対する積極的な支援を行った。	B	B	児童の個別の課題に対する保護者や専門機関、S C・S S W等との連携は十分に効果を上げていた。S Cについては、ほぼ毎回予約がうまっている状況であった。一方、地域の人材活用については、見守り隊の活動をはじめひまわり学級の自立活動、総合的な学習を中心に多くの学習を展開した。また、年間3回の避難訓練を行い、子ども達が自主的に避難できるようになるために、予告無しでの実施も行っている。	A	安心安全への要望を中心とした学校への要求度が高くなっているが、地域も協力する体制はできているので、大いに活用してほしい。学校は、学校としての考えを持ち、じっくり取り組んでくれているので、継続をお願いしたい。	今後も児童の個別課題への対応は、外部の関係機関とも連携して組織的に行いたい。また、テトル配信による学校からの便り、ホームページ等を積極的に活用し、学校の情報をしっかり発信したい。特に、不審者や熱中症対策での登下校の見守り活動については、より保護者の協力が得られるように各学級ごとに見守り日を設定し、見守り活動を実施していただいた。また、各家庭へ防犯たすきを配布し、見守り活動の啓発を行った。今後もよりよい方法を熟考し、児童が安全に登下校できるようにしていきたい。
		19	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域の人材活用を行った。	B					
		20	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくりに取り組んだ。	A					
	保幼小中連携	21	子どもの校種間交流や教員の出前授業に取り組んだ。	B	B	保幼小中との連携や中学校との連携は、出前授業やお互いの校園を子ども達が行き来する学習が少しずつ実施できた。新年度の連携として幼稚園や中学校とカリキュラム作成を進めることができたため、新入生や卒業生の不安解消につながれると考える。また、中学校学区の連携では、特に生徒指導面で積極的に取り組み、日々の情報交換を行った。	B	保幼小中の連携を大事に考えていることが十分に伝わっている。確実に子ども達のより良い育ちにつながっている。あいさつや掃除等の重点的な取り組みは、中学校でも大いに生かされている。新年度の教育活動においてもそれぞれが安心して学校生活をスタートできるように、今後も工夫を続けてほしい。	新入生やその保護者の不安を少しでも解消できるように、さらなる接続カリキュラムを検討・実施していきたい。少しずつすでに幼稚園等との検討を始めている。また、活動を行っている学年の者や担当者だけでなく、全校的な意識の高まりを求めている。
		22	校種間の合同研修会（皇教研等）に取り組んだ。	B					
		23	校種間の授業公開、カリキュラム研究に取り組んだ。	B					
組織的体制の充実	生徒指導体制の充実	24	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。	A	A	生徒指導担当・いじめ担当・教育相談担当が密に連携し、問題意識を共有しながら早期対応ができた。しかし、保護者の理解を得ることができず、問題事案がやや長期化したこともあった。放課後に学年総括会議を行うことで「ほう・れん・そう」も徹底できた。関係各機関との連携もスムーズに行えた。また、各学級でいじめは絶対許されないということを繰り返し指導した。	A	学校が問題事案への組織的で素早い対応を心がけていることは評価している。今後とも保護者への啓発も含め、子ども達が安心して活動できる学習環境の維持に努めてほしい。学級や学校に不安を抱える児童への対応も評価できる。個々に合わせた対応を今後も充実させてほしい。	全職員が生徒指導上の課題や問題点についての情報を共有しようと努められている。さらに全校の子ども達を全職員がきめ細やかに理解できるように、職員による「志賀小よい子ニュース」の情報集めを積極的に進めたい。加えて、保護者の理解を得ながら、児童自身の自己指導力の育成をめざした教育活動を推進していきたい。
		25	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進に努めた。	A					
		26	家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。	A					
	特別支援教育	27	個別の教育支援計画及び個別指導計画の作成と活用に努めた。	A	A	年度初・末に学年別のケース会議を開いた上で、個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、個に応じた指導を行っている。巡回相談を始めとした各専門機関とも連携し、保護者対応にあたっている。また、職員会議の前半に、特別に支援を要する子ども達のことを共通理解する時間を設定し継続している。	A	特別支援教育について積極的かつきめ細かく取り組んでいることが分かった。子ども達の生きとしがたえとした表情や活動ぶりからもそれらのことがうかがえた。また、人数が大変多いにもかかわらず、大変落ち着いていることに驚いた。今後も続けてほしい。	今年度同様、特別支援教育に関する研修を年度初めに行い、支援を効果的に行っていききたい。また、学年別のケース会議も継続し共通理解を図りながら組織的な個別対応を進めていく。また、保護者への連絡を密にし、児童へのより適切でより迅速な対応ができるようにしたい。
		28	組織的・計画的な特別支援体制の確立に努めた。	A					
		29	関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。	A					

県共通	学校満足度	30	児童の学校満足度	A	A	90%近くの児童が「学校が楽しい」と答えている。	A	保護者アンケートでも80%以上の方が自分の子が学校に行くのを楽しみにしていると答えている。	保護者・地域・学校がそれぞれのよさを生かし合える連携の方法を模索し、よりよい学校づくりに努めた
-----	-------	----	----------	---	---	--------------------------	---	---	---

設定（達成度）の目安

達成度	指 標
A	目標を上回る達成
B	目標を達成又はおおむね達成
C	目標を達成せず
D	目標を大きく達成せず